下
年恒重
金英堂梓

一の巻の
蓋是稱以散兵迷大兵之類将略所貴
此の間に味方の人々ハ一息つきて香かおきべらんでと
ありふれつきれて黒烟四面にもどうありたちさるがら
一大董摩堂に巨像の不動を安ずるがごとしかくそう
たくもすさまじく那の賊軍ハ今のてきくに
稍おそろしくおそろさきもはるやくとらぶちろろとくぶれて
ありもいらんとすることなく兵門ぐれに群叢団銃丸を両
注矢石をとせ喧々そうく閑き時で本走するのくありせば舘榛
一さび公堂に立戻りたる公使の命令をうぬこの時館しや焼残し

御届明治十五年九月　日
出版人　東京本所区亀沢町壱丁目十九番地　関根孝助
編輯　本所区亀沢町壱丁目四十三番地　藤西真三
串業版

つぎ 張子ふ公堂と清遠閣と
あまたあるのく
公堂
清
遠閣へ

外務省

へしらもお客賓
お接待する所
いつ通る吾人う
客間おこそ呼ぶ

陸軍歩兵大尉水野勝毅氏衆おむらそ
ひらく今日あへうの暴虐政府もとみふい
故もゆゆしくられど老ら
吾輩のちらをつくし千支居ふい
ゆらぶや韓更兵とぶーて
保護をゆたうと意のそ
夜も更闌て今十二時ひろの
戦初ふさうのぶりて指と風ーが
のふまぶ底さやすぎて七月同ぶ
すらひのひさらぶぶしハ斯もまこと所以へや
あるならんまうしてことのつふやまれぬてれ
従容ーて死あるぬ又まぬうぶふ
至ると得ぶーも數と武力ふこそ斬てふ

賊徒とるべつかてハ血流と
ひらきて立らるくまぐいるも
つびんろおのゝ〳〵所見ときろま
ゝ〳〵と詞ハ水島すゝこそ
拙者愚意ふうんぐさハ舘前
の賊へその侭と舘後の賊と
つ死まりぞけ直ふしろの山と
のぐりて間道径路とりね
往て華場津ふ
いろふハまろず
まよくんハいふふこ
言尾ゆまこず
小林巡査これを賛せり

水嶋ハ公使舘のやとひ
ものの名と義とそ
よぶものゝこの
とろらふ岡
兵一水島小林ハ
いろも殊更水野大尉ふ
むひとのうゆう舘後の山ハ其路
きわめて峻嶮ふして双士あハ
せて拳べからぬ且夫ぞく
り山上ふうくまてこぐ
さぐりふ矢ぬと放てば我命
いさぐらふ弓銃ふ隈さん不如のこぬと
ひらきて賊軍ふ正面ふまろり伐て韓犬死屍の山と

つゞき　きゞき

るつて和膽雄俊の威を示すあり也

◐驚ふとこの容易暴徒ふあらんとざれば戰沒とすべふ

たゞちあらん凡人の所為根據ハ

慮君も決意ふあらばや曷そ

背嶺ふよりて用ゐんと論辯

區々として議けつせば岡兵一ハ

二等警部とふ斷定と公使ふ

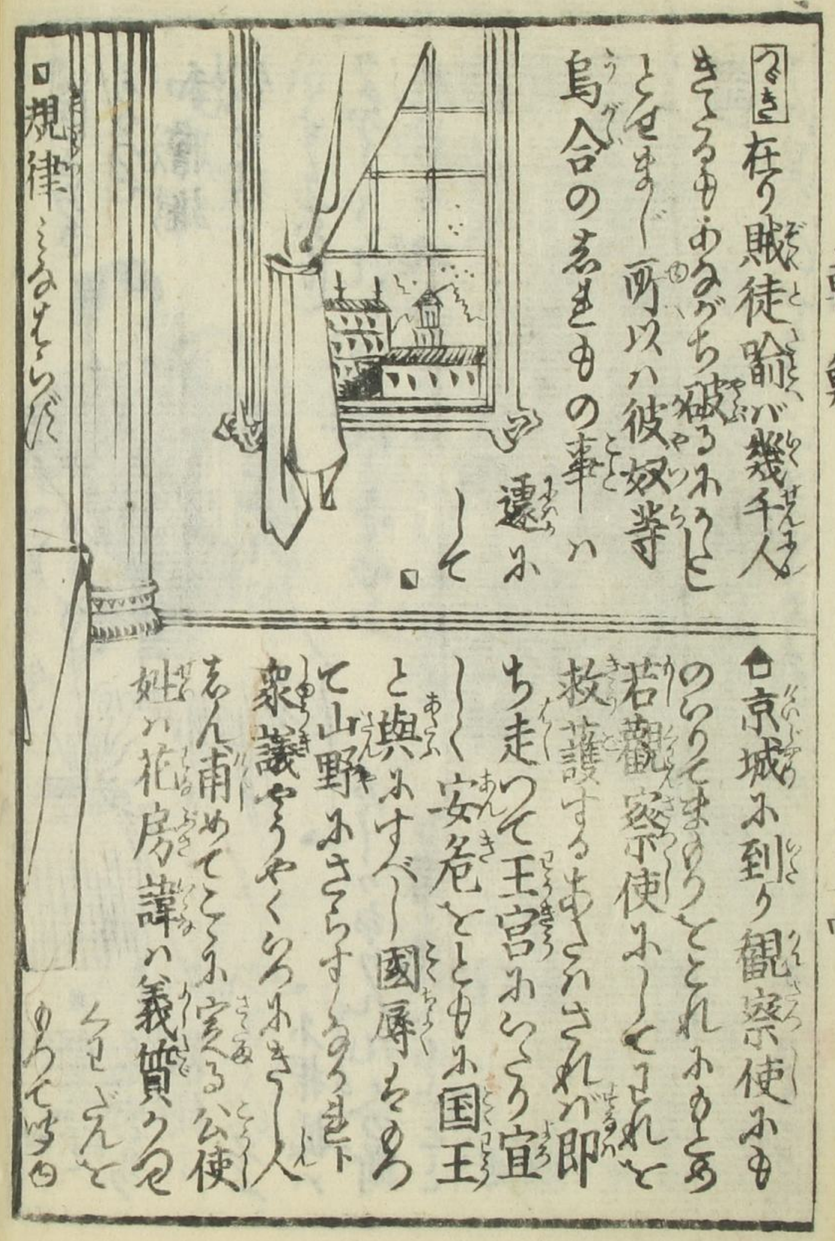
うふ公使ハ狀とこゝ〳〵屬僚ふ

謂て曰く聞く曩ふ韓人の來りて報ぜ

うふ暴民せまりて王宮および閔氏の邸を◐

國威を辱ずるとせざ

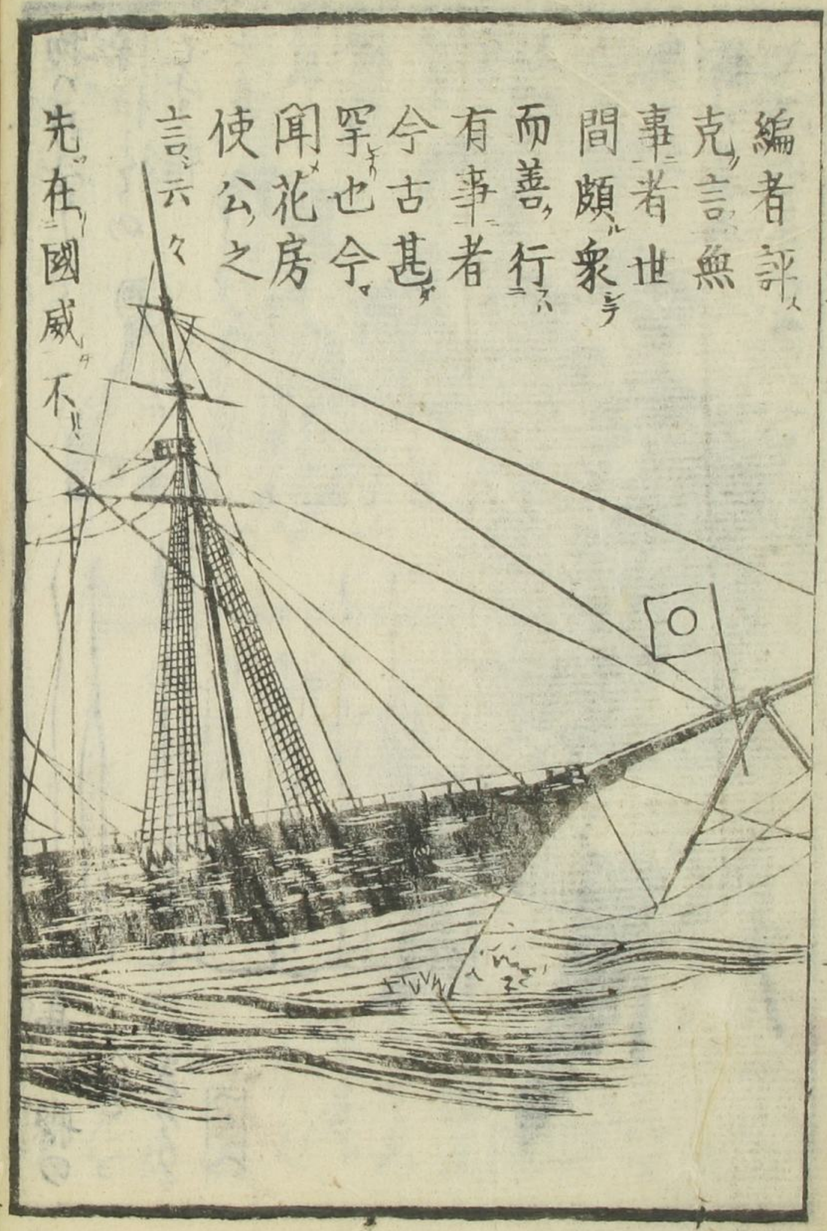
うふ


つゞき
存り賊徒輸ハ幾千人
きたるもあるべし破るれうと
とせまず一所以ハ彼奴等
烏合の衆ものの事ハ遠ふ
して
規律こゝろなし
京城ふ到り觀察使ふ
のゝりそまりとこれふもと
若觀察使ふしてこれと
救護するもされが即
ち走つて王宮ふらう宜
安危とともふ国王
と與ふすべし國辱を
て山野ふさらすしるる君
衆議やうやくふきし人
ちん甫めてこふ宣る公使
姓ハ花房諱ハ義質ろを

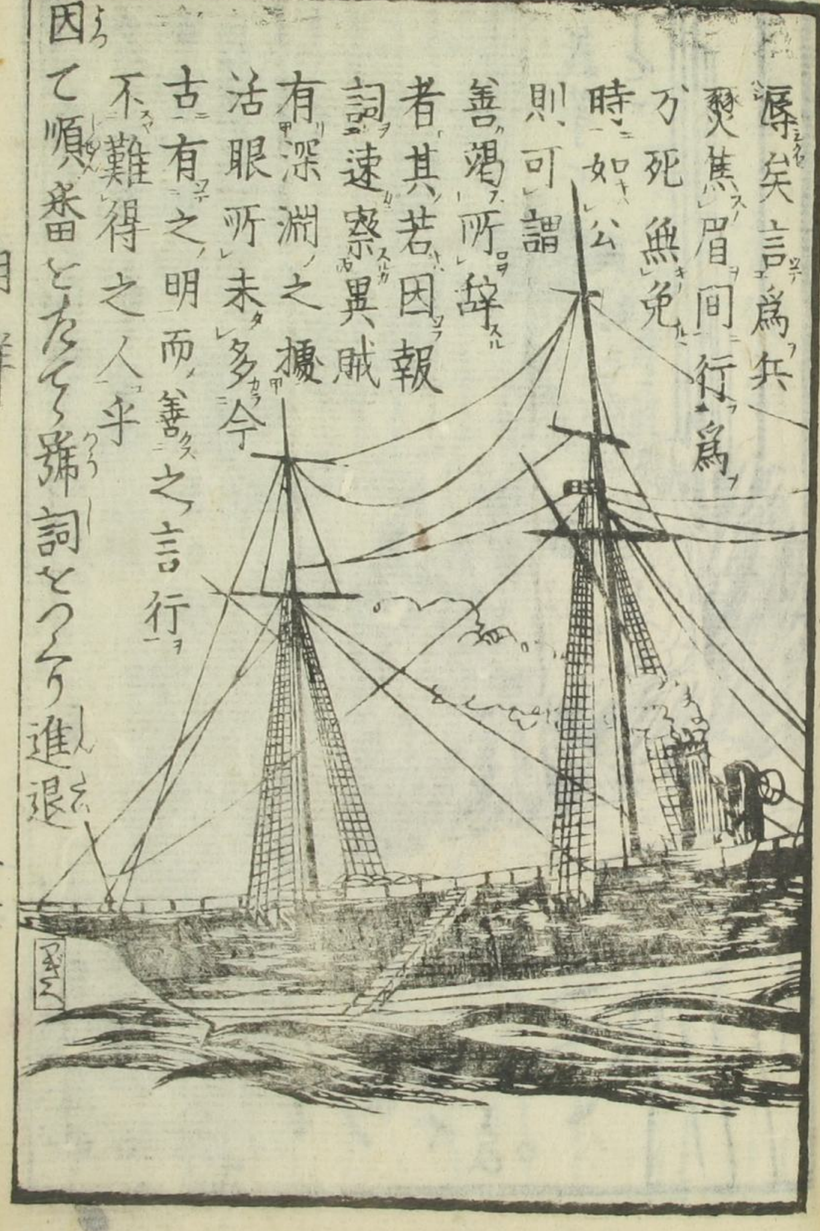
物ハ如ずして
隊伍とのの
ことず惟
そゝ
置々
發然
のゝて
先
正門と
ひらゝ
衛て血
衢とゝすめ
大路ふゝりて
高知縣の
人と
きゝろ
つゞき

編者評
克言無
事者世
間頗衆
而善行
有事者
今古甚
罕也今
聞花房
使公之
言云々

先在國威不

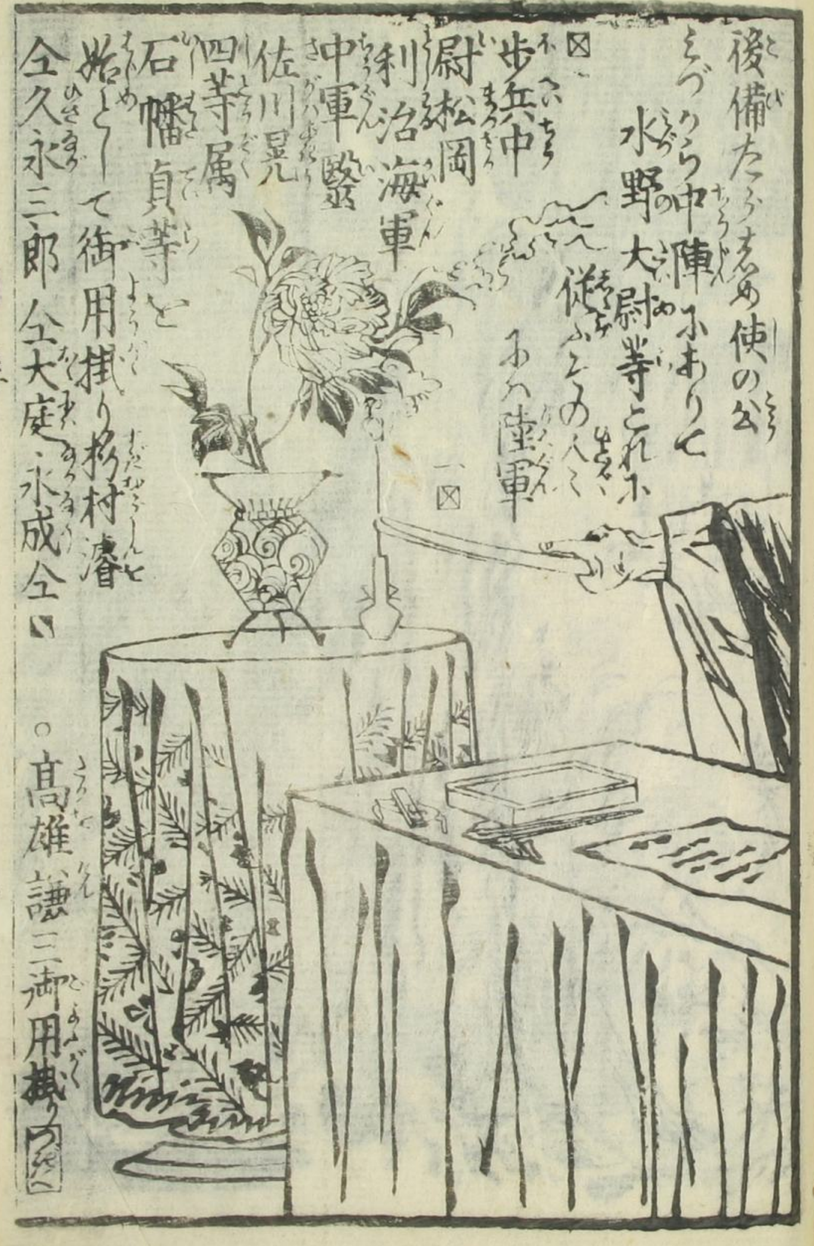


辱矣言爲兵
燹焦眉間行爲
万死無免
時如公
則可謂
善渴所辭
者其若因報
詞速察異賊
有深淵之擾
活眼所未多今
古有之明而善之言行
不難得之人乎
因て順番とたゝ蹄詞とつゝ進退



てきと とやくしてを隊伍とそのひ岡浅山等と
めつて先鋒とす 陸軍歩兵
軍曹千原秀三郎 水鳥△

曾庸輔陸軍省語学生 武田甚太郎



後備たる使の公
そづくら中陣ふありと
水野の大尉等とれホ
従ふこの人々
ふ八陸軍

歩兵中尉松岡利治海軍中軍監佐川晃四等属石幡貞等と
始として御用掛り杉村濬
仝久永三郎 仝大庭永成仝

高雄謙三御用掛り

使舘傭中村
卯作公
今西
某 近藤 須事 従者 松廣
錫木 顧 寺モミヂ 自費生 桶
某一等巡査廣戸昌克二等巡査
宮鍋大郎 自費生 近藤道堅ら
すべて三十餘名ある公使館の正門
を固めて固さ使の公暨び水野大尉中陣より令を
放てばまづ一同ホ鯨波を作り先鋒岡淺山ちよして
隊伍をこぐさず次ぐをとそうそうまバ賊軍眼るるう声々
ホ生ぐうそ敵将を取らんを討とれとやよめ紀ぐるうそ八方をり
尾礫をあげ矢をとぐ〜いろべうう銃丸を雨を呼ぐすさまぐ〜て
とする炮のんハ鈴こうとうい〜そ烈〜火々くるるうどんをのるこ

つぎ[illegible]ふひらめ兒さうくくるる土雲
勝負ふ培と我先鉾きろ[illegible]
どころふ八九人とさ[illegible]り後備中陣おのく
十餘人とりふる賊

△ゆろぶるの
三十幾ぬい
されど
ひるめる
のろる兄
賊隊目ふあるる
大軍ふ[illegible]
味方ハふ[illegible]

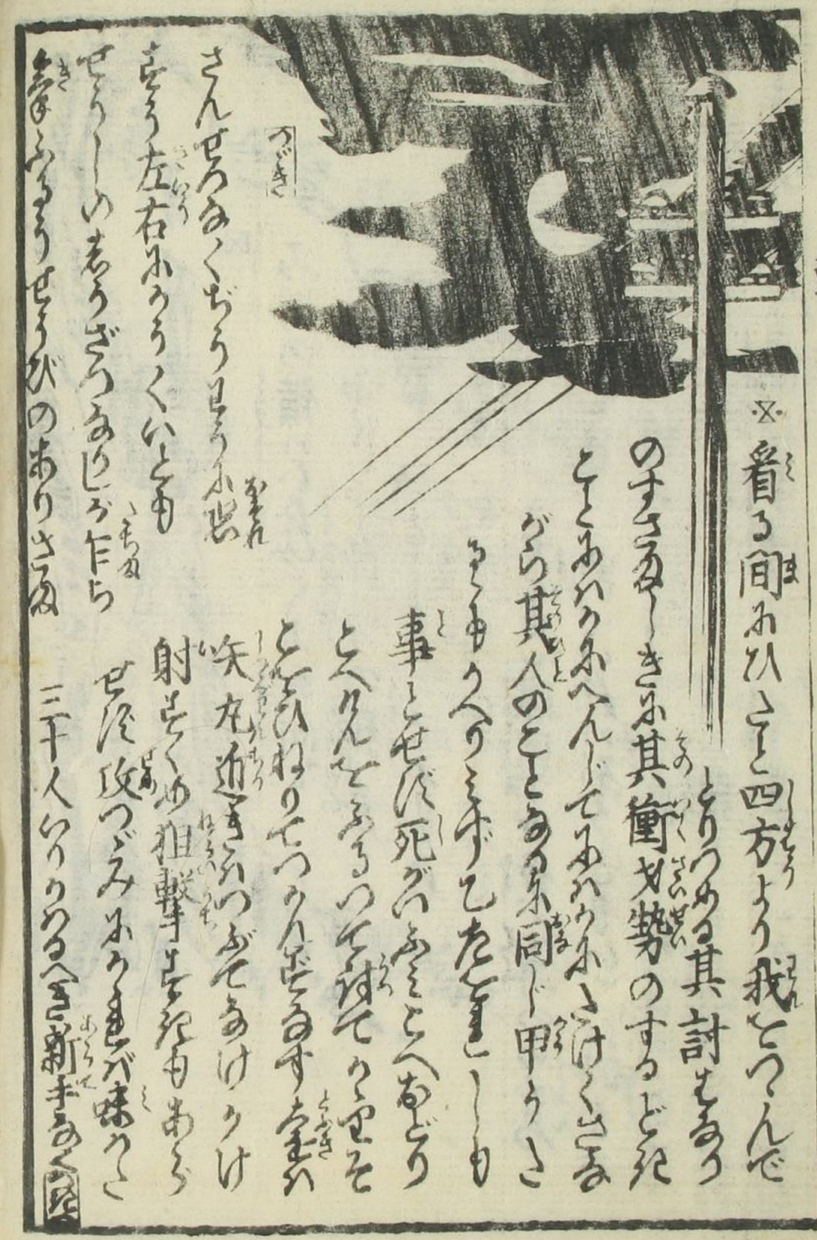
☒つくみ[illegible]と供ふ
てつの[illegible]
いと
ふ△

三十餘人ありふ
應援のつぐく
あらぬ暴徒
あく知り得る
ものうらもばら
くあらう
其内ふ

ふるまひ只東奔
西走しそろ
くませも
ます

寡兵當
難の労
をとます
ふ四めん☒

みかの備ハあわてゝ所向と
おし中陣一ツの號声と
いとゝ三方おとろえ
て雲霞なすこゝろ
とし賊軍ゲ厚薄のらぶろ
割てゆれかゝるとみいまゝ時分ハ
ようと合圖とこゝろを筒音すゝ
ゝ鄙怜悧野韓の
襲う蒐挽
と推す味うこの名軍
ろうのうそのぎゐれだらく
どをそろまんと前後中陣



※看る間ふれ入て四方より我とつんで
のすさまじきふ其衝戈勢のするどき
とくあいろふへんじてあいのふさけく出る
ぐら其人のことなる不同ゝ甲うさ
事ともなく死ぐるものとへあどり
とくんでなるつそなすてうせそ
とくあいねりてつうんぜるすまい
矢九近きいつぐてあけうけ
射ちくゆ狙撃ちて死もあるら
ぜ攻つぐみふうまぐが味うて
さんぜろあくぐろうまうふ
ちろう左右ふうろうくいとも
ぜうしいちうざうあじぐ作ら
ぎふちうぜうびのありさま

010190514540